

# 環境・労働安全衛生に関する報告

## ■ 全社重点目標

### 1. 2010 年度の達成状況

スローガン 〈EHS - hope100〉		杏林製薬（キョーリン製薬グループ）を永続的に堅実で健全な企業として成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します	環境	CO <sub>2</sub> と廃棄物の排出量削減	労働安全衛生	労働安全衛生対策の100%履行
重点目標		達成状況				
<b>研究部門・製造部門：</b> 新たな CO <sub>2</sub> 削減プロセスを検討する。 <b>環境</b> 2015 年度：対 2009 年度比 25% 減 (21,099 t → 15,824 t) 廃棄物の低減：最終処分率 5% 以下 社会貢献活動の推進  <b>労働安全衛生</b> 休業労災 ZERO の実現 * 休業労働災害：1 日以上の欠勤をカウント		<b>環境</b> ◎ CO <sub>2</sub> 排出量 20,187 t 排出 <b>環境</b> ◎ 廃棄物量 全体 1,259 t、最終処分率 2.7% ◎ 最終処分率 2.7%  <b>労働安全衛生</b> ◎ 休業労災 0 件				
<b>営業部門：</b> 安全運転、効率的な運転による燃費の向上 <b>環境</b> (13.0 km/ℓ 以上を目標) 日々の営業活動での環境と社会への貢献  <b>労働安全衛生</b> 車両事故の削減 事故率 5% 以下への具体策検討 事故件数：108 件以下を目標		<b>環境</b> ◎ 営業車両燃費 12.5km/ℓ <b>環境</b> ◎ 販促資材 事業所在庫低減  <b>労働安全衛生</b> ◎ 車両事故 202 件発生 (50% 以上有責事故) 事故率 22.4% (202 件 / 900 台)				
<b>本社部門：</b> <b>環境</b> オフィスの効率的運用  <b>労働安全衛生</b> 心身の健康への自覚喚起		<b>環境</b> ◎ オフィス整理整頓徹底 <b>環境</b> ◎ オフィスの効率的運用 ・ 文房具の再利用促進 <b>労働安全衛生</b> ◎ メンタルヘルスとメタボリック予防実施				

## 全社対応

改正省エネ法の施行となった 2010 年度は、2010 年 11 月末に定期報告書と中長期計画書を提出し、法的な対応を行いました。また CO<sub>2</sub> 排出量の削減策を検討するために、引き続き CO<sub>2</sub> 削減プロジェクトを立ち上げ、杏林製薬各事業所と共にと共に対策案を検討いたしました。

## 研究開発部門・製造部門

2010 年度より EHS-HOPE100 の新たなスローガンを掲げ、CO<sub>2</sub> 排出量については「2015 年度までに 2009 年度比 25% 削減」を目標として活動しています。2010 年度の排出量は 20,187 トンとなり、目標値 15,824 トンに向け、設備導入や省エネ対策を実施しています。廃棄物最終処分率は、リサイクル化に努めた結果 2.7% となりました。目標の 5% 以下を達成することができました。

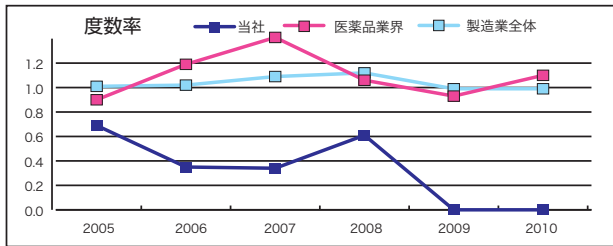
休業労災の発生はありませんでした。休業を伴わない労働災害事故は 7 件発生しました。いずれも、各事業所で適切に対応し、再発防止策を実施しました。その他、労働安全衛生では、特殊健康診断を実施し社員の健康管理を実施しています。

### ○ 当社の度数率・強度率について

当社は、労災事故防止の取り組みにより度数率・強度率とも、製造業全体の水準を大きく下回っています。また、労災による死亡事故は、創業以来発生していません。

当社集計

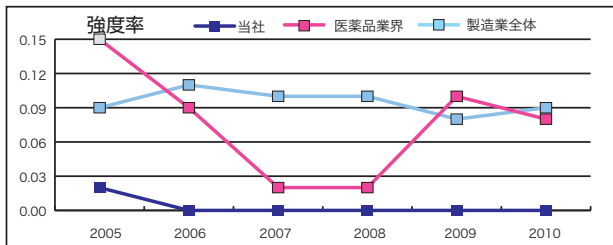
年度	労災件数	通院のみ	休業1～3日	休業4日以上	延損失日数	従業員数
2005	8	6	1	1	71	1502
2006	2	1	0	1	7	1488
2007	4	3	0	1	7	1517
2008	4	3	1	1	15	1716
2009	2	2	0	0	0	1724
2010	7	7	0	0	0	1804



度数率

年度	当社	医薬品業界	化学業界	製造業全体
2005	0.69	0.90	0.90	1.01
2006	0.35	1.19	0.88	1.02
2007	0.34	1.41	1.10	1.09
2008	0.61	1.06	0.84	1.12
2009	0.00	0.93	0.72	0.93
2010	0.00	1.10	0.72	0.99

\* 2010年度の医薬品業界は2005年～2009年の平均値



強度率

年度	当社	医薬品業界	化学業界	製造業全体
2005	0.02	0.15	0.07	0.09
2006	0.00	0.09	0.10	0.11
2007	0.00	0.02	0.04	0.10
2008	0.00	0.02	0.07	0.10
2009	0.00	0.10	0.13	0.08
2010	0.00	0.08	0.04	0.09

\* 2010年度の医薬品業界は2005年～2009年の平均値

度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数（災害発生の頻度を表す）  
算出方法 = 労働災害による死傷者数 / 延実労働時間数 × 1,000,000

強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数（災害の重さの程度を表す）  
算出方法 = 延実労働損失日数 / 延実労働時間数 × 1,000

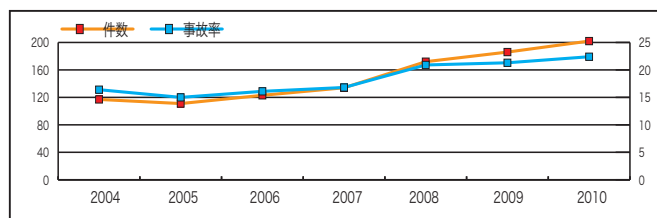
営業部門・本社部門

燃費の向上については、年度平均で12.5km/ℓ（営業車両1台あたり）と目標である13.0km/ℓ以上を達成することができませんでした。2010年度は夏場の猛暑が影響し、7月～9月の燃費が低下したことが影響していると考えられます。2010年度もプリウス・インサイトを導入し、燃費向上と事故防止の両面からエコドライブを推進しました。さらに、防犯の意味からも車内に荷物を置かないことを徹底した結果、燃費が向上しました。

車両事故の削減については、支店管理者への直接的な指導、コーナーセンサーの導入や事故多発者にドライブレコーダーを設置するなど新たな対応策を実施しましたが、202件（事故率：22.4%）と前年度の186件（事故率21.3%）を上回りました。車両事故について、2011年度はこの事態を深刻に受け止め、関係部署とも協力し、事故防止策を推進して事故削減に取り組んでいきます。

車両事故件数（当方責任50%以上）物損事故のみも含む

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
件数	117	111	123	134	172	186	202
事故率	16.4	15.0	16.1	16.8	20.9	21.3	22.4



本社においては、昨年と同様オフィスの整理整頓を再徹底しました。また本社員員の健康管理への取り組みとして、メンタルヘルスおよびメタボ予防に関する各種情報提供やエレベーターを極力使用せず、階段の利用を促進するなどの対策を行いました。3月11日の東日本大震災以降は、本社屋で電灯の間引きや昼休みの一斉消灯などの節電を実施し、2011年3月～6月の間で前年より月平均28%程度の電力を削減することができました。

## 2. 2011 年度の目標

## 2011 年度 スローガン：EHS - hope100

## 重点目標

杏林製薬（キョーリン製薬グループ）を永続的に堅実で健全な企業として成長させるため、地球と人に優しい企業を目指します。

**環境** CO<sub>2</sub>と廃棄物の排出量削減

**労働安全衛生** 労働安全衛生対策の100%履行

## 研究開発部門・製造部門：

**環境**

◎ CO<sub>2</sub>削減策の検討と実行

2015年度までの目標：対2009年度比25%減（21,099トン→15,824トン）

\* 2011年度は19,339トン以下のCO<sub>2</sub>排出量を目標とする。

## ◎ 廃棄物の低減 最終処分率を5%以下

## ◎ 社会貢献活動の推進

**労働安全衛生**

## ◎ 休業労災0件の実現

※ 休業労災：1日以上欠勤を休業労働災害とする

## 営業部門：

**環境**

## ◎ 安全運転、効率的な運転による燃費の向上（営業車両1台あたり平均13.0km/ℓ以上を目標）など日々の営業活動を通じた環境と社会への貢献

## ◎ キョーリンスマイルプログラム(\*)を通じた社会貢献活動

**労働安全衛生**

## ◎ 車両事故の削減 事故率5%以下への具体策検討

## 本社部門：

**環境**

## ◎ オフィスの効率的運用

**労働安全衛生**

## ◎ 心身の健康への自覚喚起

\*キョーリンスマイルプログラム：全社的に取り組む社会貢献活動

## 全社対応

2011年度は、2011年7月末までに定期報告書と中長期計画書を提出し、法的な対応を行います。またCO<sub>2</sub>排出量の削減策を検討するために、引き続きCO<sub>2</sub>削減プロジェクトにて、杏林製薬各事業所と共に対策案を検討し、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいきます。

## 研究開発部門・製造部門

2011年度のCO<sub>2</sub>排出量（工場、研究事業所計）は、2010年度に掲げたスローガン「EHS-HOPE100」を基に、2015年度の目標値に向けた省エネ対策を実施していきます。特に節電については前年ピーク比25%削減を自主目標として取り組みます。廃棄物最終処分率は5%以下を目標とします。また、各事業所で実施している社会貢献活動の内容について全社共有を図り、全社で社会貢献活動に積極的に取り組みます。

労災事故は、2011年度も休業労災0件を目指します。

## 営業部門・本社部門

2011年度は、前年度と同様に燃費13.0km/ℓ以上（営業車両1台あたり）を目標とします。引き続きエコドライブを励行するなど、できるだけ無駄な燃料を使用しないように啓発します。

車両事故件数については、少なくとも前年実績を下回ることを目標に関係部署とも協力し、事故多発者への指導、教習やドライブレコーダーの導入だけでなく、新入社員に関しては研修中での実車教習時間を増加させるなど、事故削減に向けた新たな取り組みを実施します。

本社では前年度から引き続き節電に取り組んでいきます。また、EHS推進委員によるオフィス巡視等を通じ、オフィスの有効活用を継続して実施します。また社員の健康の維持管理についても、各種体組成計付のヘルスメーターの設置、階段の使用促進など、各自が手軽にできるヘルスチェック、メタボ対策等を実施していきます。

## ■ 全社における1年間の環境との関わり

対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日

### INPUT（資源・エネルギー使用）



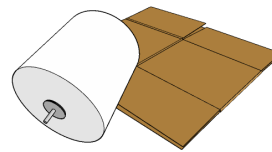
電力  
1,494 万 kwh



燃料（原油換算）  
5,220 Kℓ



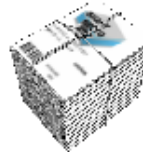
原料  
3,105 t



資材  
860 t



水  
230 千 t

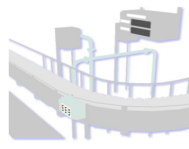


紙使用（A4 換算）  
1,384 万枚

### 業務活動



研究開発



生産



営業活動

### 製品・サービス



製品



情報

### OUTPUT（環境への排出物）

・廃棄物発生量：1,259 t  
（内、リサイクル量：468 t）



・大気への排出量：CO<sub>2</sub>：20,187 t ※ SO<sub>x</sub>：1.5 t  
NO<sub>x</sub>：82.2 t ばい塵：0.8 t



・水域への排出：BOD 負荷量：0.8 t  
総排出量：117 千 t



※定期報告書の計算表をもとに算出した数値となります。  
営業用車両が使用するガソリンによる数値は含めていません。

## 環境に対しての継続的な取り組み

### 1. 地球温暖化防止

コ・ジェネシステム導入、ボイラー小型化等による燃料使用量削減  
 照明・空調運転管理による使用電力削減  
 ユーティリティ検討（使用動力源の適正管理）  
 エコカー・ハイブリッドカー、低燃費車導入による燃費向上と排気ガス削減

### 2. 廃棄物発生量の削減

排出量削減とリサイクル促進、最終埋め立て量 ZERO への挑戦

### 3. 化学物質の管理

PRTR 法対象物質管理と見直し（使用量削減と代替の検討）

### 4. 大気汚染の防止

ボイラー及び発電機からのばい煙、NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub> 排出量測定・管理

### 5. 水質汚濁の防止

排水処理棟・一次処理装置による処理、pH・BOD・SS管理

### 6. 森林破壊の防止

用紙リサイクル、再生紙利用、業務のペーパーレス化推進

### 7. オゾン層破壊の防止

特定フロン使用機器の早期代替

### 8. 地盤沈下の防止

地盤沈下発生確認と上水利用率向上

### 9. 土壌汚染、地表水汚染の防止

タンク地上化と防油堤設置、緊急時対応訓練実施

### 10. 騒音の削減

騒音測定管理と対応

### 11. 悪臭発生の防止

ドラフトチャンバー（排気粉塵等吸収排出装置）設置、  
スクラバーによる洗浄脱臭



**コ・ジェネシステムとは？**  
 灯油発電機で作った電気を利用し、そのとき発生した廃熱をエアコンなどの動力源に再利用するシステムです。



**排水一次処理装置とは？**  
 排水発生箇所の近くに設置し、排水中のSS（浮遊物質）や油分などを取り除く装置です。



**スクラバーとは？**  
 研究所、工場等から発生する酸性・アルカリ性のガスを中和処理してから大気中に排出する装置です。

（各種取り組み結果によるデータは、別途資料「環境に関するデータ」のとおり）